

## 深刻化するドメスティック・バイオレンス トゥルムフ・オドントヤさん（モンゴル）

モンゴルでは 1990 年半ばから、DV、特に女性への家庭内暴力が拡大し、メディアで広く取り上げられるようになりました。2009 年に国連人口基金の融資でモンゴル統計局が実施した「リプロダクティブ・ヘルス調査」の結果では、調査対象者の女性 6,894 人のうち 19% に当たる女性が、夫または内縁関係の男性から身体的暴力を受けていたことが分かりました。モンゴルでは、およそ 5 人に 1 人の女性が DV を受けていることが明らかになったのです。また警察庁の刑事登録では 2010 年から 2015 年の間、DV によって死亡した被害者が 80 人で、1,180 人が重軽傷を負ったことが発表されました。このように、近年モンゴルで DV が深刻かつ重大な社会現象となっています。

このような状況のもと、DV を防止し、根絶するために政府や非政府の多くの団体や機関が活動を実施しています。厚生省、法務省、警察庁など政府機関の他、人権開発センター、ジェンダー平等センターなど非政府機関・民間団体の活動も著しく、国連や国際援助団体など国際機関と共同し、さまざまな活動を行っています。

暴力防止ナショナルセンター(National center against violence)は DV 防止のために活動するモンゴル初の民間機関です。1995 年首都ウランバートル市に設立されて以来、女性への DV や児童虐待への対応や暴力を未然に防止するための法的環境整備をはじめ、数多くのプロジェクトを実施しています。現在、モンゴルの 21 ある県のうち、14 の県に支部を設け、被害者女性や子どもに対して 24 時間の電話相談コーナーを設け、専門家による精神的、法律的なアドバイスを行うほか、暴力を受けて身体・精神的に危機な状況下にある女性や子どもを一時的に保護するシェルターを全国の 5 カ所に設けて、運営しています。

モンゴルで DV が拡大した社会的背景の一つとして、社会主義から市場経済への移行期の社会諸問題、特にアルコールの過剰摂取、飲酒問題が挙げられます。社会体制の変化による失業や貧困、生活困難が続く中、社会的ストレスが増加し、その解消のため過度のアルコール摂取につながり、その結果が DV につながっているという見解が一般的です。さらに、上記の社会的背景の他にも、法的環境が整備されていないことも少なからず影響を与えていると考えられます。

この問題を解決するために 1996 年に「モンゴル女性の地位向上のための国家プログラム」が政府によって策定され、女性への暴力、人権問題に特別に配慮することが明記されました。また 2004 年には、暴力防止ナショナルセンターをトップにした諸民間団体の 9

年間にわたる運動によって「DV 根絶法」が国会で可決されました。このように DV に関する法的環境は整いつつあるものの、DV を私的な事柄、家庭内の問題と捉える見方がいまだに根強く残っており、せつかくの「DV 根絶法」が十分に機能していない現状を生み出しています。一方で、昨年 2015 年 12 月に DV が家庭内の問題ではなく刑事事件として取り扱われる事例も生まれてきました。

長年の民間運動によって制定された「DV 根絶法」は、モンゴルで重大な社会問題となっている DV 拡大の歯止めとなることと期待されています。